TENTACLES

隷嬢秋山凛子の蜜箱

This is"Rinko Akiyama"
"Taimanin_Yukikaze"fanbook
Presented by Garyuh_Chitai
2016 winter

ADULT ONLY...

TENTACLES

隷嬢秋山凛子の蜜箱

P04…はじめに
P05…ＴＥＮＴＡＣＬＥＳ　隷嬢秋山凛子の蜜箱
P42…あとがき・奥付

この作品はＰＣゲーム「対魔忍ユキカゼ」
シリーズの第一作目をベースに
ヨミハラの奴隷娼婦に堕ちた
凛子とゆきかぜの姿を描いた
二次創作です。

あっ　はぁあっ❤
いい…っ　おじさまの
チンポおっ❤

わたヒのエロマンコ…
このチンポだけの
穴になってしまいそうっ

ちゃくッ
ちゃくッ
ちゃッ!
つぱちゃッ
んぼっ❤
んぢゅるっ❤
げははは　そうじゃろう！
高い金で魔界医師にチンポ
改造させたんじゃ
元対魔忍じゃろうと
耐えられまい！
ギリッ
ギリッ
ズッ
ズッ
ズ

ほぉ？　ワシみたいな醜くて汚くて臭い男に犯されるのが幸せか？

はいっ　し　幸せっ♥臭い身体好きっ！汚いチンポ好きいっ♥

どちゅ！　ザク　ザク　ザク　どちゅんっ！

あーっ　あーっ

パン！　パン！

いやっ　イヤ…達郎なんか絶対イヤあっ

おじさまのチンカスチンポのほうが好きいっ！

本当はこぎれいな男がええんじゃろ？弟くんみたいな

そうか　彼はゆきかぜの恋人じゃったなぁ

ヤツのキスとクソ穴しゃぶりどっちが好きじゃ？

そ　そんなの…オスくさいケツ穴のほうに決まってるよぉ…っ♥

あんな奴とのキス…吐きそうになるから思い出させないで…っ

ちゅぷっ　ちゅぷっ　ちゅぽっ

すまんすまんお詫びのキスじゃ愛しとるぞ　凛子

はっ♥

あぁあ…私も愛してますぅ…♥

ちゅるみる…♡

ズギュ！　ズギュ！

イクぞ　淫売便器っどこに出す？　どこに欲しいんじゃ？

おーっ　おーっ

か…顔にっ♥顔じゅうをおじさまのせーえきでマーキングしてっ♥

チンポのニオイぶっかけてっっ♥♥

ザク　ザク

ドクドクッ

は…あっ♥

あっ♥

あ…

あぁ♥あぁ♥あぁ♥

ビクッ ビクッ ビクンッ♥

ちんぽ

ちんぽッ

あ…

ドロ…ッ♥

あぁ…♥おい…し…い♥

は♥

ちんぽ

ちんぽ

マンコもケツ穴も好きなだけ使って出しまくって

ふるん♥

んふ♪おじさまぁ♥次は私にも…ね？

ふるん♥

凛子先輩に負けないビッチ便女に調教してください♪

とろ…♥

にちっ♥ にちっ♥

MAKE ROOM
メス豚控室

もおおおおなんでいっつもこうなのよ――!!

ムキー!!

ガン! ガン!

早く支度がえなさい。

せっかく本気で奴隷堕ちできると思ったのに

なんで犯り終わるとくどくどダラダラ余計なこと言って冷めさせるのよ!

急にカッコつけんな!

ボ、ボクと幸せになってください!!

あんだけ『ブタ』だの『便器』だの罵倒して性欲丸出しの最高なセックスしてるくせに

キミいつまでもこんな仕事してちゃダメだよ。

急にプロポーズとか説教とか聖人気取りとか!

改めなさい。

悔い

『さっきの無し』みたいなことして台無しじゃん!

ラッセラーのト!

サンダーバック

ホップ

まあ…よくあることだ

ああいうのを上手く受け流すのも仕事だろう?

お客さまぁぁ!!

そりゃ奴隷娼婦も一年以上やってるから

快感にも屈辱にも慣れてきてますけど

凛子先輩はちょっと慣れ過ぎじゃありません?

あのエロい喘ぎ声とか達郎全否定とか実は演技なんじゃ

本気だよ。

ならいいですけど…

――でも

未練ゼロ。

先輩のはただの慣れとは違う

まるでプライドを持っているようにすら見える

例えば『新人』との接し方

貴女たちが新人娼婦だね

私が教育係の秋山凛子　よろしく

いくら身体を改造されようとも

怯え傷ついた敗北者は心を閉ざす

先輩はそんな彼女たちと根気強く接し受け入れ　守り

立派な奴隷娼婦へと導いていく

いつしかみんな先輩を慕い心と身体を開いていく

こんなの慣れだけで出来ることじゃない

『凛子さんのために』

過酷な仕事を頑張っている仲間の多くが

先輩への恩返しの気持ちを抱いていることは間違いない

それに凛子さんが変えたのは後輩の心だけじゃない

リーアル様

みんなからのプレゼントです。

お誕生日でしたよね おめでとうございます

お…おう？ あ ありがとう…？

何も仕掛けなんてないですよ

ただの自撮りAVですよ。

いまや自身を堕とした張本人にも対等に話ができる立場になっている

殺るときは小細工無しでいきますから♪

奴隷だとは思えない凛々しさ

毎日のように過酷な隷従を強いられ

糞尿以上の汚い罵声を浴びせられても

いつも穏やかで美しい

ただの娼婦ではなく気品と淫靡さあふれる花魁のような――

そして私は

そんな先輩といつも一緒にいられることが誇らしい

YOMIHARA B1

どうした？急に

なんでもないでーす♪

だけど　凛子先輩と
一番近くにいるのは
私ではない

AM 02:1

自室に帰ると
先輩の雰囲気は
がらっと変わる

二度目のシャワー
を浴び　丁寧に
髪を梳いて

魔界医師の調合する
淫薬（ドレイク）ローションを
素肌になじませる

はは
そうかもね

娼婦（しごと）のときより
丁寧じゃありません？

なんで『彼』に
会う時だけそれを
つけるんですか

どうせ――

『どうせ体内に
染みついた
ドレイクのせいで
普段から淫臭が
垂れ流しになって
いるのに』

だろう？

ぬち

ぬちゅ

ぬちゅ

まあ…
気分の問題だよ

できるだけ濃厚な
メス豚臭で彼のチンポを
欲情させたいんだ

彼のキンタマ精液を
少しでも多く
味わいたい

客のニオイや味…
かすかな名残すら
消し去って

全身で彼のチンポに
発情したいから

なんて健気な――

教えてください
凛子さん

どうして彼の
ことが　そんなに
好きなんですか

『彼』は――
いや『それ』は

ゴウン
ゴウン
ゴウン
ゴウン
ゴウン
ゴウン

人ではないのに。

それは
巨大な肉壁

このガラス部屋は
淫欲あふれる蜜箱

おまたせ

ヌル…
ヌル…

ピッ
ピッ
仕事のあとで
疲れもあるだろう
休みたくなったら
遠慮なく部屋に
戻るんだよ
ピーッ
いえっ
大丈夫です！
おともします！
そう
じゃあ…
ごゆっくり♥
ズルッ…
ズルッ
ズルッ
ズルッ
ゴクッ
ゴクッ
ゴク

はぁ…あ♥
ズル
ビクン♡
ほ
あ
ん
すまない
遅くなって…
ヌチュ♡
あ♡
は…あ…っ♥
クリュ♡
ビクン♡
ぎゅむ♡
あ…んっ♥
ふにん♡
どにゅ♡
んくっ♥
ズリュリュッ♡
んあぁっ♥♥
あっ あひっ♥
ズルン!
ズルッ!
グリュ
クリュ
ビクン♡
んちゅ…ん♥
んぶ…っ♥
きて♡
ズルルル…♡
レて♡
どぱぁ…♡
はぁ…あぁ…
やっぱり ここが
一番落ち着く
お前に抱かれて
いる時が…
きて…中まで…♥
マンコの奥まで
癒してくれ…♥
トロ…♡
トロ…♡
トロ…♡
『抱く――』
トクン…♡

『最後』ではない

クリュ

クリュ

ああ…んっ❤
こら…焦らすな…

ぺちっ!

ぺちっ!

ぺちんっ!

ちゃく♡

ちゃく♡

バカ…そ　そうじゃ…
なくてっ　ああっ❤
もう…もう…っ❤

ちょっ

ぺちっ!

ぺちっ!

は　早く入れろっ❤
お…奥までグチャ
グチャに犯せぇっ!

ぺちんっ!

優しく愛撫し
じらして　昂らせ
激しく犯す
そう　彼は——

あぁあ
——っ!

ボコォッ

ボッ

ボッ

ボ

憧れの先輩のあんな姿…
興奮で身体中が一気に燃え上がる
は♥
は♥
は♥
なんて無様でいやらしくて素敵なんだろう…
幻滅どころかますます憧れてしまう
ボコッ♥ボコォッ♥
イヤッ
ヒッ
ヒギッ
く…あぁっ 気持ち悪い…っ！
やめ…ろぉっ くそっ こんなものに負けるものか…っ！
ブルルッ！
グボッ！
た 対魔忍の誇りにかけて 絶対に…うあぁあっ！
んぁあっ ふ 太いいっ やめ… 子宮…壊れるぅっ！
射精…もう… やめろ…やめ… やめてぇっ！
グギュッ！グギュッ！
クチュ♥クチュ♥
ひっ…あぁ…やめ… てぇ…たしゆけ…て…
お…おほっ んほ♥ もう イキ…たく な…ひぃ…っ♥
グギッ
ビク♥
ギギッ
ビク♥
あう♥
えぅ♥
ガクガク
あッ♥
あヒ♥
ヒギッ♥
ガク ガク
ズギュ！
あぉおおっ♥♥ あひ…っ もう許してぇえっ！
なる…なりますっ♥ リーアル様の奴隷にっ 肉便器になりますぅっ！
あごっ おご…♥ マンコっ マンコ イクのとめてぇえっ♥
ボコッ♥
ボコッ♥
ボコッ♥
んほおおっ♥イぐっ♥ いぐいぐぅうっ♥♥♥
ビクッビクッ♥

ビクッ♡ ビクッ♡

ビクッ♡

ビクッ♡

そんな先輩が
今では
あんな性欲の
塊を支配している

んあ

つまりそれは
この肉壁と

グチャ

グチャ

数えきれないほどの
交尾を重ねて心を
通わせてきたと
いうこと

チュクッ

ふふ　ほら
こっちも…♥
ケツ穴のニオイ
好きなんだろう？

あッ

はッ

はッ

ズルル…

トロ…♥

トロ…♥

あは…身体中の
キンタマ袋がパンパン
じゃないか♥

いいよ　私も
アナルセックス
大好きだから

さあ…このエロブタ
ケツマンコにその
キンタマ精液…
全部排泄して
くれ…♥

ケツ穴
いくっ

はやく
はやくっ

ヒク…

ヒク…♥

ヒク…♥

んあ…ぁあああっ！

ズボッ

ズボッ

ズボッ

言葉ではなく
身体で理解し合って
意思と快楽を
伝え合い

ビクッ
ビクッ
もっと♥
もっと♥
ケツ穴♥
ケツ穴♥
クリュ♥
クリュ♥
分かる？　今日は
客にもケツまんこ
使わせなかったんだ♥
今日のケツ穴っ♥
全部っ　全部
お前のものだからっ♥
壊れるくらい
犯していいからぁっ♥
ぢゅぽっ♥
ぢゅぽっ♥
ぢゅぽっ♥
ぢゅぽっ♥
ヌチュ♥
ヌチュ♥
ヌチュ♥
ヌチュ♥
ガボッ♥
ガボッ♥
ガボッ♥
ガボッ♥

まるで同化して
いるかのよう

おぐっ♥
んおおおっ！
んぼっ♥
ぢゅぽっ♥
ぢゅぽっ♥
ぢゅぽっ♥
ぢゅぽっ♥
ヌチュ♥
ヌチュ♥
ヌチュ♥
ヌチュ♥
んぐぉ♥
ひっ♥
おヒいっ♥
んあぁあっ♥
抜けるぅうっ♥
イヤ　抜くな…
抜かないでっ！
ドプッ
おホぉおおぉ
おっッ♥♥♥
ボルルルルルッ♥
ゴボッ
ゴボッ
ゴボッ
ゴボッ
ゴッ！

あぁっ　クるっ…♥
ケツ奥までグリグリ
クるうっ♥

コレ…人間じゃ
出来ないいっ…！

ぶっといチンポ
せっくすううっ♥

ゴリュッ！

ゴリュ

ゴリュ

んおッ♥

おほ♥

ガクガク

ガクガク

んほォッ♥

ゆきかぜ…あぁ…
見て…っ♥
ケツ穴の音
聞いてぇえっ！

ズボッ

ズボッ

ズボッ

ズボッ

あはっ　ゆき…かぜっ
すごい…だろ…っ♥
マンコもケツ穴も
拡がって…

はッ♥

あぁ…か　かオ…
全部…マンコ穴ぁ
…っ♥

あぁあ…ゆきかぜが
見へるのにぃ…っ♥

ヒッ♥

ヘッ♥

ゴヘッ♥

ズボッ

ズボッ

ズボッ

ズボッ

あッ♥

あッ♥

今っ　今からココに
射精されるんだっ♥
今から全部…エロ穴全部
せーえき便所になるのッ♥

みぢッ♥

みぢッ♥

みぢッ♥

みぢッ♥

んぁあ…こ　こんな
近くで…っ！
もっと　もっと見て♥

んほっっ！
んひいいいっ♥

あんっ

あぃっ

ひッ

イク…イクっ♥
ゆきかぜ…私がだらし
なくイキまくるところ
見てぇっ！

見て♥

見て♥

ビクッ♡

ガクン

ガシッ♡

ガシッ♡

ガシッ♡

ビクビクビクゥ!!

イッくぅぅ♥♥♥

ボッ

ゴボッ

ドチュッ!!

ゴボッ

ドチュッ!!

ドチュッ!!

ドチュッ!!

あ"ーッ

あ"ーッ

ゴボッ

あ"ーッ

おホぉおっ♥
おごっ んぉっ♥
おえぇえっ!

ビクン!
ビクン!

ゴボッ♥

ゴボッ♥

んひいっ♥ おな…
か…ぁあっ!
しゅご…いいっ♥

ドタッ♥

ドタッ♥

ドタッ♥

わたヒっ♥キンタマっ♥
お腹がキンタマ袋に
なってるぅうっ♥♥♥

先輩っ　見てますっ❤❤
私　全部見てますっ❤
ブタマンコもっ
変態ケツまんこもっ❤
ゾクッ
ゾクッ
は、
は、
ズルルッ
ブリブリひり出す
ところ見せて
ください！
ガクガク
出るっ
出るうっ
らめぇ
らめぇ
びくびく
先輩　もっと見せてっ
お腹のキンタマ
汁っっ！
ダンッ
ダンッ
ガクガク
うれヒいっ！
見て　見てっ❤
この淫乱ウンコ穴
から射精するところ
見てぇえっ！
あっ！
ああっ❤
ゾクンッ
ゾクンッ
ビクッ
イくっ❤
イクうっ！
ズボッ！
ハァ
ハァ
ズボッ
ズボッ
ガクガク
ズボッ
ズボッ
ズボッ

あぁ…初めて
見るこんな先輩

下品で無様で最低
なのに　素敵すぎて
心臓が張り裂けそう

ビクン♡
ビクン♡
はー♡
それ以上にここでは
私の事なんて眼中に
ないと思っていたのに
逆に私の視線で
イってくれた…
あぁ…♡
はー♡
ビクン♡
ブポッ♡
ブッ♡
ドロ…
ドロ…

それがたまらなく
嬉しい――

分かる？
ゆきかぜ
今日は彼もお前を
いつも以上に
意識しているよ

えっ　彼も…？
ドヤッ
ああ　さっきの射精量も
今までにないほどだったし
あそこまで見せつけるのも
初めてだった
お前の視線に何かを
感じているんじゃないかな
なんだか
『いいところ』を見せ
たがっているみたい
ズルル…

ゆきかぜ
もう少し付き合って
くれるかな

だから　今日は
私ももっと
張り切ってみよう

あ…アレは…

飲み込まれている間
私は何も見えない

だからゆきかぜ
全身マンコになった
私をしっかりと

身体中からスケベ汁
垂れ流してイキ狂う
姿を…

心に焼き付けて
くれ♥

ぬちゃ…ズル…

ズル…

あ…んっ
んふ…❤

こら
ゆっくり…

ぢゅるッ

ズルルッ

んご…っ❤

んむっ❤

ぢゅぽっ

んぼっ！

ぢゅ

ズル…

すごい…なんて
そこまで出来るん
だろう

私も奴隷娼婦になって
客の求める凌辱には
ほとんど耐性が出来た

でも　コレだけは
いまだに怖い

ぢゅ

ぢゅ

ぢゅ

それでも先輩は感じている

全身の肌で触手の体液を吸って飲んで犯されている

ぢゅぽ♥

ぐぽッ

あぁあっ！おぶうぅっ♥

あぉ♥

んぉオン♥

ぐぢゅ

ぐぢゅ

んほぉ♥

ひっ ひいっ♥ あへ…ぇへっ！

グリュ グリュ

あ――っ♥ あぁ――っ♥

ズン ズン

グヂュ

マズッ

人間の取り繕った言葉も常識もない

限界すらない肉と肉の快楽

マズッ

ぐぢゅ♥

ぐぢゅ♥

ビュ――ッ♥

ビュ――ッ♥

ビュ――ッ♥

ぁ――っ♥

ぁ――っ♥

ぐぢゅ

ぐぢゅ

ぐぢゅ

秋山凛子という
人の本性は

命を懸ける危機感
生き残る充足感
きっとそれが生の根幹

先輩にとって対魔忍は
使命感よりも
それを感じられる手段
だったのかもしれない

だから先輩は
娼婦に堕ちても
揺らがない

プライドを持っている
ように見えるのは
己の誇り高き被虐性を
満たせる別の手段を見つ
けたからなのか――

そんな先輩を
満たせる人間は
いるだろうか

受け容れ 癒せる
蜜箱を持てる者
なんて誰も――

ズリュ

いや

そんなことない！

私だって――

ズボボボ

ビクッビクッ！

ビクッ！

んホおおおおおっ♥♥♥――っっ♥

先輩っ♥
凛子先輩っ♥

ジュみッ

会話できなくても
私にも伝わってます

私だって…肌で
先輩を理解したい

愛したいんですっ♥

ビクッ♡

んごっ♥
んふうっ！
ゆヒかへ…♥
ゆひはへぇえっ！

ラぉ♡

んぢゅるっ♥

んちゅ♥♥
んぶっ♥♥

私　先輩がどれだけケツ穴が好きなのか誰よりも知ってます♥

ぶりゅ♡

ぶりゅ♡

ぶりゅ♡

ビク♡

ビク♡

あっ♥

ひぐっ♥

ほらほらほら♥ちょっと叩いただけで腰が跳ね上がって♥

ぶびゅ

ぶびゅ

ぶちゃ!

ぶちゃ!

ぶちゃ!

ブタ声で喘いでも悦んでること全部理解してます♥

もっとですよね？もっとブリブリ下品な音たててクソ穴犯して欲しいんでしょ？

ウンコするたびにイッちゃうようなド変態ケツ穴奴隷になりたいんでしょ♥

アヒッ♡

ヘちんッ♡

ヘちんッ♡

ヘちん

了解しました♥

ビクビクッ♥

ビクビクッ♥

ビクビクッ♥

ビュー♥

ビュー♥

ビュー

ドピュッ

ふる…
ふる…

あ…あ…♥

ドピュッ

ヒク…
ヒク…

はぁ…はぁ…♥
はぁぁぁ…ん…♥

は…

ドピュッ

はぁ…あぁ…
ゆき…か…ぜぇ…♥

は…

ドピュッ

先輩…
大丈夫ですか

は

は

ゆき…かぜ…

あ　あの
勝手に入ってきて
ごめんなさい

それにちょっと
雰囲気に飲まれて
調子にのっちゃった
というか…

うぅん…いいんだ

むしろ　待ってた…
ずっと…

見て
ゆきかぜ

彼の身体（チンポ）…
今日は今までで
一番すごいよ

ビュクン！ビュクン！

ブルブルと
全身を震わせて
触手の先までが
快楽の余韻に
浸っている

ビュクッ！

ドプッ！

ビュクッ！
ビュクッ！

ドプッ！

ドビュッ！

ドプッ！

射精し続けている
姿を見せつける
ように
今の私にはそれが
人よりもヒトらしく
雄よりもオスらしく
見えた

ドプッ！
ドプッ！

これは…

・・・・・
言った通りだろう？

『どうして彼のことがそんなに好きなんですか』

何も隠さないから
――かな

正確には『隠せない』
なんだろうけどね

人間の男たちと
違って
私に向ける愛欲…
純粋無垢な性欲が

一片のウソも虚飾もなく
むき出しなところに
安堵感を覚えるんだよ

確かに…肉体全てが
快楽をむき出し
にしているような…

わ

わ

まるで身体から
神経を引きずり出して
肉塊にしたような感じ
だろう？

にちゃ

ズル…

ズル…

にちゃ

私や周囲の人間は
言葉を飾り　感情を
隠し　すべてを
偽ってきた

それが
正しい日常だった

対魔忍としても
娼婦としても
一人の女としても

でも
本性を　私は自分の
知った

自分の安らげる場所は
この無垢で原始的な
存在の中だと

ここは唯一
疲れた心が裸に
なれる部屋

じゃあ　なんで
私がここへ入る
ことを…？

待ってた…って

お前は――

どちらかというと
彼に近いような
気がしたから…かな

へ？

『原始的』ってわけじゃないが…
誰よりも隠し事を出来ないタイプだろう？

特に…私に対しては無防備すぎるほどだ
昔から…出会った頃からずっとね

決定的だったのはあの肉体改造を受けたときだ

ビクン!
ビクン!
ビクン!
ゼくん
ゼくん

あっ　や…だっ♥
あぁあ　もう…
イキたくないっ♥

く…あぁ　耐えろ…
ゆきかぜ…っ！
こんな薬なんかで
イクなど…い…く
なん…て…あぁあっ♥

お前は私がイクたびに
うっとりとした目で
見ていた
最初は薬のせいかと
思ったが　だんだん
はっきりと伝わって
きて…

先輩…っあぁ…
イク…私また…っ♥

周囲のやつよりも　お前
一人に見られているほうが
恥ずかしかったし
すごく…
感じていた

く…ぅうっ
ゆき…かぜ…っ

もしかしたら
昔から私がお前の
世話を焼いたり
対魔忍として
いつも共に戦い

娼婦になっても
堂々としていられた
のは

ただ単純に　いつも
キラキラしてるお前に
尊敬されたかった

そしていつか
誰よりも幻滅されて
罵られ　犯されたい

そんなエゴだったの
かもしれない

それなのに
お前の気持ちに
感づいていながら

自分から踏み出せず
こんな場所に
連れてきて

そしらぬふりで
お前が踏み出して
くれるのを待った

ズルい女で
ごめん

来てくれて
ありがとう

裸にしてくれて
ありがとう

こちらこそ
ありがとう
ございます
先輩と『彼』に
感謝しなきゃ

彼が
いなかったら
私も踏み出せ
なかったから

これからも一緒に
先輩を変態クソ穴
便女に堕として

一緒に
犯しまくって

一緒に
護っていこっか

よろしくね

あはっ
いいコンビ？　けっこう

ウソつけない者同士
なんか通じあってる
かも♪

ビッ！

これなら　私も
いつか丸のみセックス
とかできちゃうかも

敵を射抜く不敵な笑み
奴隷娼婦の媚びた笑み

誇り高い女としての
凛とした微笑

ちょっとにじんだ
視界に映るのは

私が愛した
そのどれでもない

秋山凛子という

無垢な少女の
素顔だった——。

あとがき

ずっと描きたかった凛子本がなんとか完成しました。感無量。
思えば対魔忍ユキカゼの第一作が発売されたのが2011年。
もう5年前になるのですね。あっという間だったなー。

最初のプロットではゆきかぜがここまで出る予定では
無かったのですが、描いてるうちにゆきかぜも好きに
なってきて、結局二人のラブラブストーリーになりました。
もともと公式設定でも凛子とゆきかぜ大好き同士ですし。
触手との絡みも含め、楽しく描けました。

原作未プレイの方はぜひ、遊んでみてください、
この本のシチュエーションがより楽しめるかと思います。

ゆきかぜメインの本も
描きたくなってみたり…。
ちっぱいを描く楽しみに
覚醒しそうです。

では、また。

発行：我流痴帯
著者：ＴＡＮＡ
2016/12/31発行

e-mail: garyuh@tana00.sakura.ne.jp
URL: http//tana00.sakura.ne.jp
印刷：しまや出版

未成年者の閲覧・購読を禁じます

ＷＥＢへのアップロードを
禁じます

TENTACLES

隷嬢秋山凛子の蜜箱

This is"Rinko Akiyama"
"Taimanin_Yukikaze"fanbook
Presented by Garyuh_Chitai
2016 winter

ADULT ONLY...

PRESENTED BY
GARYUH_CHITAI
2016_WINTER

ADULT ONLY

PRESENTED BY
GARYUH_CHITAI
2016_WINTER

ADULT ONLY